

令和7年度 こども学科2年

講 義 ・ 演 習 ・ 実 習 概 要

東川国際文化福祉専門学校

(2年講義概要目次)

	教科目	授業形態	単位数	必修・選択	期間	頁
1	子ども理解の理論と方法	講義	2	必修	前期	1
2	子ども家庭福祉	講義	2	必修	前期	2
3	子どもの保健	講義	2	必修	前期	3
4	子どもの食と栄養	演習	2	必修	前期	4
5	子どもと健康	演習	1	必修	前期	5
6	子どもと環境	演習	1	必修	前期	6
7	社会的養護Ⅱ	演習	1	必修	前期	7
8	子育て支援	演習	1	必修	前期	8
9	子どもと音楽表現Ⅲ	演習	2	必修	前期	9
10	子どもと言語表現	演習	1	必修	前期	10
11	保育所実習指導Ⅱ	演習	2	選択必修	前期	11
12	施設実習指導Ⅱ	演習	2	選択必修	前期	12
13	地域子育て支援活動Ⅱ	演習	2	必修	前期	13
14	特別支援教育	講義	1	選択	前期	14
15	教育方法論	講義	2	選択	前期	15
16	教育相談	講義	2	選択	前期	16
17	教育実習指導	演習	2	選択	前期	17
18	保育実践演習	演習	4	必修	通年	18～20
19	介護概論	講義	4	選択	通年	21
20	生活支援技術	演習	4	選択	通年	22
21	高齢者・障がい者の福祉	講義	2	選択	通年	23
22	保健医学	講義	1	選択	通年	24
23	子ども家庭支援論	講義	2	必修	後期	25
24	障がい者(児)福祉論	講義	1	選択	後期	26
25	子どもの理解と援助	演習	1	必修	後期	27
26	乳児保育Ⅱ	演習	1	必修	後期	28
27	子どもの健康と安全	演習	1	必修	後期	29
28	障がい児保育	演習	2	必修	後期	30
29	子どもと音楽表現Ⅳ	演習	2	選択	後期	31
30	子どものうた	演習	1	必修	後期	32
31	地域支援専門員講座	講義	1	必修	後期	33
32	卒業演習	演習	2	必修	後期	34

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子ども理解の理論と方法	2 前期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
美馬 正和	有	発達支援センターにて、2年間児童指導員として児童分野の実務に携わっていた。			
[授業の目的・ねらい]					
人はみな「こども」として生きる時期を経て、大人になり、また新たな世代の「こども」と共に生きている。では、そんな私たちにとって身近な存在である「こども」を説明するには、どのような視点がふさわしいであろうか。この授業は「こども」をより多面的にとらえることによって、「こども」に対する理解を深めることを目標とする。様々な時代・社会・文化における「こども」の在り方や「こども」の捉えられ方に注目し、養育者や保育者の在り方についても考察を加える。					
授業の概要					
子ども学は、近年注目を浴びながら発展する学問である。これまで、医学・心理学・教育学・社会学文化人類学など様々な学問領域において、「こども」を対象とする研究がそれぞれ進められてきた。しかし、本来「こども」はひとりの人間としてひとつの時代を生きる存在であるため、総体として理解される必要がある。そこでこの授業では、こども学の成り立ちを知り、諸々の学問領域に由来する「こども」に関する知見を総合することによって、「こども」の実像により近付くことを目指す。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. こども学とは何か？ 2. こども観の歴史的変遷 3. 法律とこどもの権利 4. こどもの発達・成長 5. こどもの内なる世界 見る・感じる 6. こどもの障がい・病理 7. 家族の在り方の多様化とこども 8. しつけと虐待 9. こどもの学びと教育 10. カウセリングの基本 11. 医療・福祉領域におけるこどもへの取り組み 12. こどもを取り巻く環境としての現代社会 13. こどもとメディア 14. こどもをめぐる経済 15. さまざまな状況で生きる世界のこどもたち					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)			グループワーク(成果物を含む)60%、レポート40%により評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子ども家庭福祉	2 前期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
野崎 哲也					
[授業の目的・ねらい] ＜目標＞ 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明できる。 2. 子どもの人権擁護について説明できる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について説明できる。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について説明できる。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 「現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷」について説明できる (1) 子ども家庭福祉の理念と概念 (2) 子ども家庭福祉の歴史的変遷と現在 2. 「子どもの人権擁護」について説明できる (1) 子どもの人権擁護の歴史的変遷と子どもの権利条約 (2) 子どもの人権擁護と現代社会における課題 3. 「子ども家庭福祉の制度と実施体系」について説明できる (1) 子ども家庭福祉の制度と法体系および実施体系 (2) 児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職 4. 「子ども家庭福祉の現状と課題」について説明できる (1) 少子化と地域子育て支援・多様な保育ニーズへの対応 (2) 母子保健と子どもの健全育成 (3) 子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止 (4) 社会的養護 (5) 障害のある子どもへの対応 (6) 少年非行等への対応 (7) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 5. 「子ども家庭福祉の動向と展望」について説明できる (1) 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 (2) 地域における連携・協働とネットワーク・諸外国における児童家庭福祉の動向					
[使用テキスト・参考文献] 「こども家庭福祉」(豊岡短期大学) 「みらい×子どもの福祉ボックス 子ども家庭福祉」 (みらい)		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) レポート(40%) 期末試験(60%)の結果で評価する			

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもの保健	2 前期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
大坪 陽子	有	小児科診療所における診療の補助・相談業務			
[授業の目的・ねらい]					
1 保育園・幼稚園における保健活動の概要を理解する					
2 さまざまな子どもの特性に応じた支援方法を理解する					
3 子どもによく見られる疾病・事故とその予防方法を理解する					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. イントロダクション 子どもに関する歴史と現状					
2. 学生によるプチ講義の振り分けと準備					
3. 第1章 ①子どもの健康と保育環境					
4. 第1章 ②子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全の管理					
5. 第2章 ①衛生管理/②事故防止および安全対策/③危機管理と災害への備え					
6. 第3章 ①体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置					
7. 第4章 ②救急処置および心肺蘇生法					
8. 第4章 ①感染症の集団発生の予防					
9. 第4章 ②感染症発生時と罹患後の対応					
10. 第5章 ①保育における保健的対応の基本的な考え方/②3歳未満児への対応					
11. 第5章 ③個別的な配慮を要する子どもへの対応					
12. 第5章 ④障害のある子どもへの対応					
13. 第6章 ①保育における保健活動の計画および評価					
14. 第6章 ②保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携					
15. おさらい					
＊ 3～14に学生のプチ講義・講師による講義・確認テストを組み込む。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
子どもの健康と安全 演習ノート (診断と治療社)			期末テストにより評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもの食と栄養	2 前期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要 帯広厚生病院にて3年間、栄養士として、献立作成、栄養指導などに携わっていた。また、20年以上にわたり、食生活改善推進員として、幼児から高齢者に対しての食育活動を実践している。			
三戸 和子	有				
[授業の目的・ねらい] 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達に合わせた食生活とその意義・実践について理解する。 3. 食育を行うための基礎知識を学び、その重要性を理解するとともに、地域社会とのかかわりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。 4. 子どもの食生活の現状と課題を理解することにより、保育者自身の望ましい食生活の構築に役立てる。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。					
[授業の概要] 1. 小テスト及び単位認定試験を中心にテキスト及び参考書等を活用して子どもの食と栄養について深く理解する。 2. 授業到達目標を幅広く理解するとともに、知識を深め実践力をつける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解 2. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解 3. 小児期の発育・発達と小児栄養の重要性についての理解 4. 子どもの発育・発達と食生活 1) 乳児期 5. 子どもの発育・発達と食生活 2) 幼児期 6. 子どもの発育・発達と食生活 3) 学童期 7. 子どもの食生活の現状と課題についての理解 8. 食育の基本と内容 9. 食育実践のための基本的知識の理解と実践法 10. ライフステージごとの子どもの発育・発達と食生活についての理解 11. 特別な配慮を要する子どもへの対応 1) 疾病 12. 特別な配慮を要する子どもへの対応 2) 食物アレルギー 13. 食生活の基本と実践法 1) 栄養バランスのよい食事 14. 食生活の基本と実践法 2) 減塩と適正体重 15. 食生活の基本と実践法 3) 食習慣					
[使用テキスト・参考文献] 「こどもの食と栄養」久保田絹江(豊岡短期大学) [参考書] ・「日本食品成分表」 ・「子どもの食生活」上田玲子(ななみ書房)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) ① 期末試験 50% ② 小テスト 30% ③ 授業への参加態度 20%		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと健康	2 前期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
清水 幸子	有	教育委員会主催スポーツ指導者への実践指導、保育所等での園内研究の指導多数			
[授業の目的・ねらい] 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。					
到達目標					
1. 領域「健康」のねらいと内容を理解している。 2. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解している。 3. 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解している。 4. 安全な生活と怪我や病気の予防を理解している。 5. 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解している。					
授業の概要					
乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について学び、現在の乳幼児期の健康課題について理解を深めていく。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 保育における領域健康等のねらいと内容 (保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解)					
2. 乳幼児の心身の発育・発達					
3. 乳幼児期の運動発達の特徴					
4. 乳幼児期における基本的な生活習慣と生活技術の獲得と課題					
5. 幼児期における体力・運動能力の現状と課題					
6. 保育における安全管理と安全教育(重大事故の防止、遊具別の怪我の特徴と対策)					
7. 健康と自然環境(戸外あそび)					
8. 保育内容「健康」のまとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)			知識・技能(40%)、思考判断(30%) 学びあう心(30%)		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと環境	2 前期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
齋藤 和範	有	短大の幼児教育課程で4年間、生物と環境、保育内容(環境)など身の回りの動植物などの講義を行い、腊葉標本の制作や花の季節消長を観察した。ざりがに探偵団を主宰し、子どもたちと共にザリガニやカエルなど身近な生き物の調査を継続している。			
[授業の目的・ねらい]					
子どもたちは子どもたちを取り巻く社会環境の中で、保護されながら様々なことを学んでいく。子どもたちは自分の身の回りの大人・もの・自然などの環境によって、物事の扱い方、処理の仕方、危険や安全の感じなどを学び取っていく。驚きや喜び、悲しみや楽しみ美しさなどなどの様々な感情も周囲の大人との共感によって、社会生活をするために必要な基本行動や価値観の基礎を作り上げていく。そのためにそこに携わる、保育士や幼稚園教諭の責任は重大である。幼児教育の目標として子供の心情・意欲・態度を育てることがあげられている。子どもは生活体験の中で、物事のありさまや自分や他人の心の動きや状態等と言葉を結び付けて学び取っていく。					
人との関わりすなわち社会環境では、周囲の大人が、いかに子どもたちがそれぞれの能力に応じ、のびのびと発達しやすいような場を用意することが出来るか？だろう。そのためには周囲の大人や保育者の影響が大きく関わり、それらの能力や観察力が必要となる。どのような場を与えられるか？作り出すことが出来るのか？を見ていきたい。					
自然との関わりでは、大人自体が自然からかけ離れた人為的環境の中で育ってきたため、自然の環境の変化(温度や湿度だけでなく旬や気候変動など)に対して鈍くなり、感受性(素晴らしさや美しさだけでなく、驚異や畏れなど)もまた、感じ取る心の動きが少なくなっている。					
この講義では、他の講義でも出てくる周囲との社会環境だけでなく、大人が学ぶ取ることが少なくなった自然環境との対話の中から、子どもたちと環境のあり方を中心に講義を進めていきたい。自然との関わりは、子どもたちの生活範囲がいかに小さなものであるか？を感じ取ることが出来、自分とは違う他者(人間だけではないすべて)を主体とした環境を知ることにもつながる。そして違うものに対する想像力を深め、そして他者に対する畏れや敬意にもつながる。身近な生活の中で動植物などの大きな自然を感じることは、子どもの興味や視野を広げると共に、高い知識と知恵をも広げることにつながる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
この講義は、野外観察や工作などの実習を行う。					
1～4講目:「人」と「もの」と「自然」と子どもたちの関わり (1－3座学・グループ学習 4実習)					
1講目:「人」の周囲の大人は、子どもたちを観察し一人一人の発達段階に応じ、どのような場を設けてあげることができるのか？どんな場を作るのか？大人が「こうすれば良いだろう」ではなく、子どもを観察して場の環境を作ろう。					
2講目:「もの」どのように子どもたちの興味を引くような物事ができるのか？野外の中からどのようなもの(事象)を用意できるのか？グループ学習					
野外にあるものをいかに使うのか？					
3講目:「自然」とはなにか？物語に出てくる動植物や身の回りの動植物					
どんな場を作るのか？大人が「こうすれば良いだろう」ではなく、子どもを観察して場の環境を作ろう。					
4講目:野外にある木々や草花などの自然物で、いろいろな遊びや道具を創造してみよう。					
野外の様々な材料での工作や遊び。					
5～8講目:子どもたちと自然環境のとの関わり方 (5座学 6－8実習)					
5講目:「自然」子どもたちの取り巻く自然環境とは。危険や脅威や畏れをわかった上で生き物を知ろう					
目に見えないウィルスも含め、身近な脅威に対しての対処方法とは？					
6講目:野外で子どもたちの目線で動植物を観察して、一緒に調べる方法(子どもたちと毎日散歩の時のために)					
調べるにはどんな観察が必要だろう？発見する目を持つ。					
7講目:野外に行って身の回りの草花を採集して観察して調べてみよう。(グループ学習)					
8講目:花の名前を調べて、わかった草花の押し花標本を作ろう。(グループ学習)					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「改訂 子どもと環境」中沢和子著 萌文書林			座学における授業への関心・意欲・思考力・判断力 10%		
新北海道の花 梅沢俊著 北海道大学出版会			グループワークへの積極的参加 20%		
野外観察ハンドブック 校庭の雑草 岩瀬徹・飯島和子・川名興(著)			工作のアイデア・丁寧さ 20%		
校庭のざっ草 有沢重雄(著)、松岡真澄(絵)(福音館の科学シリーズ) 福音館書店			調べ学習の正確性 25%		
ふゆめがっしょうだん 長新太(作)、富成忠夫・茂木透(写真) かがくのとも傑作集 福音館書店			野外活動での積極性や興味、安全性への配慮 25%		
札幌の昆虫 木野田 君公(著) 北海道大学図書刊行会					
北海道の蝶 永盛敏行・芝田翼・他(著) 北海道大学出版会					
増補改訂版 探そう！ほっかいどうの虫 堀繁久(著)北海道新聞社					

授 業 概 要

授業の科目名 社会的養護Ⅱ	配当学年・時期 2 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 必修
担当教員 多田 傳生	実務経験 有	実務経験の概要 障害児入所施設13年、児童心理治療施設2年、児童養護施設5年、児童相談所13年にわたり、児童福祉に携わっている。			
[授業の目的・ねらい]					
1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。					
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。					
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。					
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。					
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 社会的養護の理解のために					
2. アドミッションケア					
3. インケア					
4. リービングケア					
5. アフターケア					
6. ソーシャルワーク					
7. 記録と評価					
8. 今後の課題と展望 (1)社会的養護における家庭支援 (2)社会的養護の課題と展望					
[使用テキスト・参考文献] 「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ」萌文書林			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 課題・レポート(70%)、授業態度(30%)で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 子育て支援	配当学年・時期 2 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 必修
担当教員 島田 直美	実務経験 有	実務経験の概要 保育所で保育士、主任保育士としての実務経験がある。本校の地域子育て支援活動「遊びの広場」の開設当時(平成18年)から携わっている。			
[授業の目的・ねらい]					
1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解し身に付ける。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を実践事例を通して具体的に応用できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 子育て支援・保護者支援とは 2. 保育士の専門性を生かした子育て支援 3. 子育て支援の基本 4. 子育て支援の方法と技術 5. 子育て支援の実際①(事例検討:地域の子育て家庭に対する支援) 6. 子育て支援の実際②(事例検討:障がいのある子どもおよび家庭に対する支援) 7. 子育て支援の実際③(事例検討:要保護児童の家庭に対する支援) 8. 子育て支援の実際④(事例検討:特別な配慮を要する子どもおよび家庭に対する支援)					
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針解説(フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) グループディスカッション、授業参加状況 20% 筆記試験 80% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと音楽表現Ⅲ	2 前期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
成田 潤子	有	音楽教室において、幼児から高齢者までの様々な年齢・様々な経験を持つ人々の演奏指導にあたる。			
[授業の目的・ねらい]					
・到達目標 保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とする。 その為、授業最終回までに指定された3曲を含む15曲を完成させること。					
・テーマ 保育内容にそって、こどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成(情緒・表現・鑑賞等)を育成することをテーマに学習する。					
・授業の概要 歌唱、ピアノ奏法および弾き歌いを中心に学習する。また、理論では保育現場で必要な音楽表現を豊かにするための音楽的知識を学ぶ。実技修得は、各自に習熟度に応じた指導を個別に行う。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 童謡の弾き歌いの為の基本演奏法とコードネームについて理解し実践する。					
2. 弾き歌い演奏する曲を、テキストの中から自身で選択し仕上げる。 教員に指摘された改善ポイントを復習し、曲を完成させる。					
3. ～5. 新曲を譜読みし演奏できるように練習する。 教員に指摘された改善ポイントを復習し、曲を完成させる。					
6. ～9. 新曲を譜読みし和音の響きを意識しながら表現できるようにする。 教員に指摘された改善ポイントを復習し、曲を完成させる。					
10. ～14. 新曲を譜読みし、リズムを意識しながら表現できるようにする。 教員に指摘された改善ポイントを復習し、曲を完成させる。					
15. 実技発表(発表会形式の実技)					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「こどもと音楽表現」原敏行・鎌田直美・黒北多恵子著 「こどものうた200」小林美実編(チャイルド社) 参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針(解説書含む)」 「こどものうた[簡易伴奏曲付]」田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子著			授業参加状況 20% 実技試験 80% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと言語表現	2 前期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
島田 直美	有	保育所で保育士、主任保育士として子どもの保育、保護者支援等に携わっていた。また、図書館で読み聞かせの実践をしている。			
[授業の目的・ねらい]					
1. 子どもたちの生活に組み入れられている文化について、その歴史、内容などを理解し、豊かに育ちゆくことのために好ましい文化の在り方を理解することを目的とする。					
2. 保育現場で使用される文化財の中で、言語に関わる教材を取り上げ、それらが子どもの生活の中で経験と深く関係していることを学び、その技術を身に付ける。					
到達目標					
1.絵本、紙芝居など保育現場で使用される児童文化財の持つ意義が理論的に理解できる。					
2.保育の現場で使用される児童文化財の制作、実践を通しその内容及び保育技術が獲得できる。					
3.児童文化財から子どもの言語表現及び情緒を豊かに育てるこの意義・意味を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 保育と言語表現					
・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「言葉」「表現」の内容の確認					
・言語表現活動の意義					
2. 児童文化とのかかわり					
・児童文化の歴史、内容					
・乳幼児の成長・発達と遊び					
3. 言語表現を育む児童文化財の作成と指導①					
・ことばあそび、わらべうた、文字体験(カルタ、絵カード等)の活用と留意点					
4. 言語表現を育む児童文化財の作成と指導②					
・ことばあそび、わらべうた、文字体験(カルタ、絵カード等)の実践					
5. 言語表現を育む児童文化財の作成と指導③					
・人形劇、シアタースタイルの活用と留意点					
6. 言語表現を育む児童文化財の作成と指導④					
・人形劇、シアタースタイルの実践					
7. 言語表現を育む児童文化財の作成と指導⑤					
・素話の特色、実践					
8. 保育者に求められる言語表現力					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)			筆記試験40%		
「保育所保育指針解説」(フレーベル館)			実技試験50%		
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)			授業参加状況10% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
保育所実習指導Ⅱ	2 前期	演習	30 (2)	15	選択必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
島田 直美 他	有	保育士として子どもの保育に携わり、クラス運営、実習生の指導等の経験がある。			
[授業の目的・ねらい]					
1. 保育所実習Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得する。 2. 既習の教科全体の知識・技術を基礎とし、これから総合的に実践する応用力を養う。 3. 保育計画・指導計画を理解し、実習指導案の立案を行う。 4. 自己課題を明確化し、保育士となる自己を高める。					
〈学習成果〉 保育指導案の書き方を身に付け、それを踏まえ実践し、考察をすることができる。					
レポートにおいて、事前指導では保育所実習Ⅰの学び、反省を振り返り、これからの学びを明確に説明することができる。事後指導においては、保育実習Ⅱの振り返りにより、学びを整理し自己課題を明確にし説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
— 事前指導 — 1. 保育所実習Ⅱの目的と意義 2. 保育所実習Ⅰの振り返りと実習日誌の意義と書き方 3. 保育計画、指導計画の理解と立案 保育技術について 4. 実習指導案の作成① 部分実習「静の活動」 5. 実習指導案の作成② 部分実習「動の活動」 6. 模擬保育① 静の活動 7. 模擬保育② 動の活動 8. 実習指導案の作成③ 責任実習 9. 実習課題の明確化 10. 実習の心得と事前自己チェック					
— 事後指導 — 11. 実習内容の振り返り① 自己課題の明確化、レポート作成 12. 実習内相の振り返り② レポート発表、ディスカッション(1) 13. 実習内相の振り返り③ レポート発表、ディスカッション(2) 14. 実習報告会(全体報告)の実施① 15. 実習報告会(全体報告)の実施②					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「これで安心！保育指導案の書き方」関仁志編著 (同文書院) 「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」 (わかば社) 「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」(わかば社) 「新版 遊びの指導」(財)幼少年教育研究所編著 (同文書院) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)			授業参加状況 40% 保育指導案の立案、実践、考察、レポート 60% で 評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 施設実習指導Ⅱ	配当学年・時期 2 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 選択必修
担当教員 野崎 哲也・綱島 弘泰	実務経験 有	実務経験の概要 綱島:重症心身障害児施設、デイサービスなどで生活相談業務に携わっていた			
[授業の目的・ねらい]					
施設実習に向けての心構えについて論じることができる。施設実習に必要な知識について説明できる。 施設実習についての技術を実践できる。 ・実習の意義・目的について論じることができる ・実習対象施設の目的・機能について説明できる ・施設利用者・対象児について説明できる ・1年次施設実習を振り返り、実習目標を設定する ・自らの実習を客観的に振り返り、2年間の施設実習の総まとめを行う					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 2年次施設実習について論じることができるよう学ぶ					
2. 実習生身上調書の作成ができるよう学ぶ					
3. 実習施設及び利用者・対象児について説明できる①					
4. 実習施設及び利用者・対象児について説明できる②					
5. 実習施設及び利用者・対象児について説明できる③					
6. 実習生としての心得について、自分の考えを述べることができるようにする①					
7. 各自の実習先施設の概要について把握する					
8. 1年次実習の反省をし、実習目標の設定をおこなう					
9. 記録(日誌)の書き方について実践できる。					
10. 実習生としての心得について、自分の考えを述べることができるようにする②					
11. 実習反省をし、実習報告書の作成を行う					
12. 各自の実習についてまとめ、発表の準備を行う					
13. 施設実習報告・発表					
14. 施設実習報告・発表					
15. 実習報告会					
[使用テキスト・参考文献] なし			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 授業態度 40% 課題・レポート 60% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
地域子育て支援活動Ⅱ	2 前期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員 島田 直美 他専任教員	実務経験 有	実務経験の概要 保育所で保育士、主任保育士としての実務経験がある。本校の地域子育て支援活動「遊びの広場」の開設当時(平成18年)から携わっている。			
[授業の目的・ねらい]					
〈 目 標 〉 地域福祉や地域援助技術について学ぶとともに、地域生活支援センターの活動やボランティア支援活動などに参加することによって、体験的に地域生活支援について学び、地域に根ざした保育・福祉の実践力を身につける。 子育て支援の理念や内容・方法等について学び理解を深めるとともに、地域生活支援センターで展開する遊びの広場やイベントへの参加や、親子レクリエーション活動の企画・運営などを通して、体験的に子育て支援について学び、保育士に望まれる育児支援の実践力を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
① オリエンテーション ・基本姿勢・保護者や子どもたちへの関わり方・『遊びの広場』について ・地域子育て支援活動Ⅰの振り返り ②～⑭ 実践 ・実践『遊びの広場』を通し、以下のことを学ぶ 1. 地域福祉の理念について学び理解を深めるとともに、地域診断・計画・実践・評価といった地域援助に関する知識・技術を身に付ける。 2. 地域生活支援センターを利用する乳幼児親子、障害児(者)、高齢者の方々の活動をサポートすることを通して、福祉従事者としての実践力を身につける。また利用者の方々と実際に触れ合うことによって、地域のニーズを適確に捉える視点を身に付け、新たな実践活動の企画へと結びつける。 3. 子育て支援についての基本的な知識を身に付けるとともに、子育て支援の現場で活躍している方々にも講義をしていただき、実際の事例を通して子育て支援に対する理解を深める。 4. 遊びの広場を利用する子どもと保護者の遊びをサポートする。また保護者から直に育児体験を聞くことで、適切な育児支援のための視点を身につける。 5. 親子レクリエーション活動の企画・運営を通して、子どもや保護者のニーズを適確に捉え、そのニーズに適切に応える支援について考え、実践力を高めていく。 ⑮ まとめ 実践の振り返り ・地域子育て支援活動Ⅰでの経験も合わせ、長期的な視点での地域子育て支援について考えをまとめる。					
[使用テキスト・参考文献] なし			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) ①学習態度 30％ ②実践『遊びの広場』計画・準備・実践・反省)50％ ③授業課題(レポート課題) 20％ ①②③により総合的に評価します。		

授 業 概 要

授業の科目名 特別支援教育	配当学年・時期 2 前期	授業形態 講義	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 選択
担当教員 村田 昌俊	実務経験 有	実務経験の概要 中学校において、特別支援教育の教員として勤務、また発達障害支援団体の代表等を行っている。			
[授業の目的・ねらい]					
特別な配慮が必要な児童生徒への教育・支援、その家族への支援について学ぶとともに、医療・福祉との連携等について、ライフステージ全体を見渡す中で切れ目のない支援を生み出す方略について学びます。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程(特別支援教育とは) ①特別な教育的ニーズとは何か ②特別支援教育課程と学びの場					
2. 発達障がいや軽度知的障がいを持つ子どもの特性 ①発達障がいや軽度知的障がいの心と体の育ち ②子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び					
3. 視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい・肢体不自由・病弱等を含む様々な障がいのある子どもの特性 ①多様な子どものニーズの理解 ②多様な子どもの学びと生活					
4. 子どものニーズに合わせた支援 ①教育課程における支援 ②通常の学級における担任による支援					
5. 教育チームによる組織的支援 ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画 ②アセスメントに基づく計画と評価					
6. 特別支援教育コーディネーター ①特別支援教育コーディネーターの役割 ②外部教育資源との連携と協働					
7. 保護者・家庭支援と連携 ①保護者・家庭をとりまく問題 ②保護者・家庭とのつながりの重要性					
8. 特別な教育的ニーズを考える(現代的な視点から) ①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「特別支援教育」豊岡短期大学 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館			レポート 30% 試験・提出物 70% にて評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 教育方法論	配当学年・時期 2 前期	授業形態 講義	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 選択
担当教員 尾崎 信幸	実務経験 有	実務経験の概要 小・中学校並びに在外教育施設に教諭・校長として28年間、北海道教育行政に指導主事・指導主幹として13年間、実務に従事した。			
[授業の目的・ねらい] 教育方法の定義・意義・守備範囲の概念について基礎的知識を習得し、さらに教育の目標や内容、評価との関係性について理解を深める。また、教育現場における保育・教育の諸問題に対応していく具体的な教授方法や活用方法について理解を深め、保育者として必要な資質を培う。					
到達目標 1. 教育方法の定義・意義・守備範囲、教育目標・教育内容・教育評価との関係について理解できる。 2. 教育方法の歴史的展開について理解できる。 3. 教育メディアの発達と教育技術の革新について理解できる。 4. 授業の概念と学習指導の形態について理解できる。 5. 生徒指導の原理・方法・実際について学び、授業と生徒指導のかかわりについて理解できる。 6. 幼児の発達と幼児教育(保育)の方法について理解できる。					
授業の概要 前半では、教育方法の定義と意義、守備範囲について知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観し、先人の教育理念や教育方法について考察する。さらに、教育に活用できる情報機器や教材・教具について理解を深めたのちに、学習指導の理論と授業の方法、評価について理解する。後半では、幼児教育(保育)の方法や小学校教育との連続について考察するとともに、教育方法の課題と展望を検討する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 教育方法の定義・意義と守備範囲についての理解 2. 教育方法の歴史的展開①(西欧の教育方法) 3. 教育方法の歴史的展開②(近・現代の教育方法) 4. 教育方法の歴史的展開③(日本の教育方法) 5. 学習指導要領の変遷と新学力観 6. 教育技術の革新と情報機器の活用 7. 教材・教具の理解と活用 8. 授業の概念と学習指導の形態 9. 特色ある授業実践 10. 教育実践と授業の技術 11. 学習展開の構想と授業分析・評価 12. 幼児の理解と幼児教育(保育)の方法(生徒指導との関係も踏まえて) 13. 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 14. 幼児教育(保育)内容と小学校の教育内容 15. 教育方法の課題と展望					
[使用テキスト・参考文献] 「教育方法論」 豊岡短期大学 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領」 「保育所保育指針」(解説書を含む)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) ①レポートによる学習状況の確認(40%)、②科目試験による成績評価(50%)、及び③授業態度(10%)で判定し、評価する 100～80点 優 79～70点 良 69～60点 可 59点以下 不可 とする		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
教育相談	2 前期	講義	30 (2)	15	選択
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
前田 昭彦	有	・教員及び教育行政職として、学習指導、生徒指導及び保護者対応等 ・大学における非常勤講師(「理科教育法」「生徒指導・進路指導」)			
[授業の目的・ねらい]					
教育相談の意義と実際、その課題を理解し、教育相談におけるカウンセリングについて学び、教育相談の知識と技能を修得する。また、その知識と技術をもとに、実際の教育相談を実践できる能力を身に付ける。 学校・園の現場では、幼児・児童・生徒が様々な課題に直面する。それは、成長の一過程であるが当事者にとっては大変大きな問題である。学校・園における教育相談の役割は、こうした幼児・児童・生徒を援助することの一つとして存在する。そのような状況を踏まえ、学校・園での教育相談のあり方や、教育相談を実施するうえでの課題について学ぶことを目的とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 教育相談の概要					
2. 相談支援の基本					
3. こども理解とカウンセリングマインド					
4. 園児への心理的援助及び保護者との連携					
5. 相談支援の実際①					
6. 相談支援の実際②					
7. 相談支援の実際③					
8. 相談支援の実際④					
9. 相談支援の実際⑤					
10. こどもを理解する視点					
11. こどもを理解する方法①					
12. こどもを理解する方法②					
13. こどもを理解する方法③					
14. こどもの自己理解の発達①					
15. こどもの自己理解の発達②					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「こどもの理解と相談支援」豊岡短期大学			①期末試験(30%) ②レポート(50%) ③授業への参加態度(20%)		

授 業 概 要

授業の科目名 教育実習指導	配当学年・時期 2 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 選択
担当教員 濱本 麻理野 他	実務経験 有	実務経験の概要 幼稚園・保育園での子どもの保育、子育て支援等に携わっていた。クラス運営、実習生指導の経験がある。			
[授業の目的・ねらい]					
1 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2 保育者の専門性と職業倫理について学ぶ。 3 実習の具体的な進め方を知る。 4 幼児理解や教師の援助の方法・環境構成等について学び、指導案を立案する。 5 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。					
学習成果 教育実習の意義と目的、実習生としての心構え身に付ける。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得する。 実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
① 実習の意義と目的、実習生としての心構え ② 実習の具体的な進め方①実習前～事前準備、実習園との事前相談など ③ 実習の具体的な進め方②実習中～見学・参加・責任実習 ④ 幼稚園の基礎知識、幼稚園教諭の資質と役割について ⑤ 教育方針、長期指導計画・短期指導計画 ⑥ 実習に向けて自己課題の明確化 ⑦ 観察の視点、実習日誌の捉え方 ⑧ 指導案の書き方①静の指導案について ⑨ 指導案の書き方②動の指導案について ⑩ 指導案の書き方③責任実習について ⑪ 保育実技・技能習得①すきま遊び ⑫ 保育実技・技能習得②模擬保育・静の活動 ⑬ 保育実技・技能習得③模擬保育・動の活動 ⑭ 保護者理解と支援、特別な支援を必要とする子どもへの対応 ⑮ 実習の総括と評価、課題の明確化					
[使用テキスト・参考文献] 「教育実習事前事後指導」豊岡短期大学 「これで安心！保育指導案の書き方」 関仁志編著(北大路書房) 「遊びの指導」幼少年教育研究所(同文書院) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (フレーベル館)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) ①授業参加状況 50 % ②授業課題(指導案等) 50%により 総合的に評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 保育実践演習 成田ゼミナール	配当学年・時期 2 通年	授業形態 演習	時間数(単位数) 60 (4)	授業回数 30	必修・選択 必修
担当教員 成田 潤子	実務経験 有	実務経験の概要 「子どもの為のオペレッタ」制作に携わり、音楽表現活動を通して、集団の編成や問題のある子どもへの対応等の経験を重ねた。			
[授業の目的・ねらい]					
・常に現場の視点に立ち、様々な場面での知識や技術を意識していくことで、実践的な指導力を培う。 ・音楽を中心とした幅広い表現活動を集団として体験し、自己の課題の自覚と改善、克服を図り、「自分自身の可能性と限界」や「他者との関係性の築き方」等を学ぶ。 ・保育所や地域の福祉現場でオペレッタやハンドベルアンサンブルの発表・交流をすることで、福祉従事者として基本的な態度や援助の仕方を学ぶ。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1、職業意識について、互いの考えを発表し討論する。					
2、課題のあることもや現場での対応について、事例研究をして学ぶ。					
3、～29、表現活動の実践					
A オペレッタ製作の制作を通して、表現の技能と集団での自己の責任について考える。					
B ハンドベル・アンサンブルで、演奏技術と共にコミュニケーション能力を身に着ける。					
C 手話歌、ボディパーカッション、手作り楽器等を通して、保育現場での表現活動について実践的技術を身に着ける					
30、学習のまとめ 保育士としての職業意識と自己の成長について、1年間の活動を振り返る。					
[使用テキスト・参考文献] なし 適宜プリントを配布			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 研究の成果(制作、発表、表現、レポート等) 50% 課題への取り組む姿勢(自主性、積極性、研究心) 50%		

授 業 概 要

授業の科目名 保育実践演習 島田ゼミナール	配当学年・時期 2 通年	授業形態 演習	時間数(単位数) 60 (4)	授業回数 30	必修・選択 必修
担当教員 島田 直美	実務経験 有	実務経験の概要 保育所で保育士、主任保育士として子どもの保育、保護者支援等に携わっていた。また、定期的に図書館での読み聞かせを行っている。			
[授業の目的・ねらい]					
○児童文化財の研究を通し、子どもにとって望ましい文化財を選別する目を養うとともに保育士・幼稚園教諭としてのそうぞう(想像、創造)する力を養う。					
○デジタル社会が進み、手軽で便利なものがあふれる現代、子どもの心の成長に大切な「手作りの良さ」「アナログの温かさ」をつくり出す体験を行う。その一つとして「影絵」の研究・制作・発表を行い、その技術と感性を高める。					
○仲間との取り組みの中から対人関係における基礎的な資質(聴く姿勢、表現する力、協力しあう姿勢など)の向上をはかる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. オリエンテーション 自己覚知と他者理解					
2. 年間計画 テーマの明確化					
3～27 児童文化財の研究、実践					
・シアタースタイルの児童文化財(パペット、ペープサート、パネルシアターなど)の制作、実践					
・影絵の研究、制作、上演					
・その他、様々な児童文化財の活用と遊びの体験					
28～30 まとめ					
・オリジナル影絵絵本の制作					
・学習の振り返り					
[使用テキスト・参考文献] 参考文献:影絵劇の世界(シルエット・プレイ その歴史と創造) 藤城清治 著 東京書籍 手で遊ぶおもしろ影絵ブック 後藤圭 著 PHP研究所			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 研究の成果(制作、発表、表現、レポート等)50%、 課題への取り組む姿勢(自主性、積極性、探究心等) 50%で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 保育実践演習 濱本ゼミナール	配当学年・時期 2 通年	授業形態 演習	時間数(単位数) 60 (4)	授業回数 30	必修・選択 必修
担当教員 濱本 麻理野	実務経験 有	実務経験の概要 幼稚園・保育園での子どもの保育、子育て支援等に携わっていた。クラス運営、実習生指導の経験がある。			
[授業の目的・ねらい]					
○インクルーシブ保育の研究を行う ・保育者として必要な特別な配慮を要する子どもの理解、援助方法を研究する。 ・保育現場での実践を通して研究し、その結果を総括しまとめる。 ・課題を発見する力、物事を観察する力、客観的に考えまとめる力を培う。 ○保育者としての実践力を身に付ける ・特別な配慮が必要な子どもにも活用できる遊びを実践する。 ・自己覚知に努め、ゼミ活動を通して他者との相互理解を深め、柔軟な人間関係を構築する基礎を培う。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. オリエンテーション 2. 年間計画 テーマの明確化 3～29 実践・研究 ・インクルーシブ保育の研究 ・特別な配慮を要する子どもも一緒に行える遊びの実践 ・手作り人形劇の研究・制作 ・実践の総括 30. ふりかえり					
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて適宜資料を配布する。			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 研究の成果(制作、発表、表現、レポート等)50%、 課題への取り組む姿勢(自主性、積極性、探究心等) 50%で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 介護概論	配当学年・時期 2 通年	授業形態 講義	時間数(単位数) 62 (4)	授業回数 31	必修・選択 選択
担当教員 平田 留美 硯 明美 綱島 弘泰 平間 千絵 野崎 哲也 伊藤 義晃 谷口 公一	実務経験 平田 有 硯 有 綱島 有 平間 有 伊藤 有 谷口 有	実務経験の概要 平田:看護師として、病院で看護業務に携わっていた。 硯:障がい者支援施設において介護福祉士として介護業務に従事していた。 綱島:重症心身障害児施設、デイサービスなどで生活相談業務に携わっていた。 平間:精神神経科で臨床心理士として5年間の審理業務及び、本校学生相談室における心理相談業務に携わる。 伊藤:高齢者福祉施設で20年以上にわたり、介護業務、および生活相談業務に携わっていた。 谷口:障害者・高齢者福祉施設において介護福祉士として、介護業務・相談援助業務に従事していた			
[授業の目的・ねらい] 介護職員初任者研修に係わる以下の項目について説明できるよう学習する 介護における尊厳の保持・自立支援 介護の基本 こころとからだのしくみと生活支援技術 振り返り					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 人権と尊厳を支える介護 2. 自立に向けた介護① 3. 自立に向けた介護② 4. 自立に向けた介護③ 5. 自立に向けた介護④ 6. 自立に向けた介護⑤ 7. 介護職の役割、専門性と多職種との連携 8. 介護職の職業倫理 9. 介護における安全の確保とリスクマネジメント 10. 介護職の安全 11. 介護の基本的な考え方① 12. 介護の基本的な考え方② 13. 介護に関わるこころのしくみの基礎的理解① 14. 介護に関わるこころのしくみの基礎的理解② 15. 介護に関わるこころのしくみの基礎的理解③ 16. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解① 17. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解② 18. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解③ 19. 生活と家事① 20. 生活と家事② 21. 生活と家事③ 22. 介護過程の基礎的理解① 23. 介護過程の基礎的理解② 24. 介護過程の基礎的理解③ 25. 総合生活支援技術演習① 26. 総合生活支援技術演習② 27. 総合生活支援技術演習③ 28. 総合生活支援技術演習④ 29. 振り返り① 30. 振り返り② 31. 就業への備えと 研修修了時における継続的な研修					
[使用テキスト・参考文献] 「介護職員初任者研修テキスト」 (中央法規)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 北海道介護職員初任者研修実施要綱にある 「修了評価」に基づく筆記試験を行い、6割以上の 正答を合格とする。(100%)		

授 業 概 要

授業の科目名 生活支援技術	配当学年・時期 2 通年	授業形態 演習	時間数(単位数) 64 (4)	授業回数 32	必修・選択 選択
担当教員 平田 留美 硯 明美 長井 瑞希 谷口 公一	実務経験 有	実務経験の概要 平田:看護師として、病院で看護業務に携わっていた。 硯 :障がい者支援施設において介護福祉士として介護業務に従事していた。 長井:認知症対応型共同生活介護で介護福祉士として介護業務に従事していた。 谷口:障害者・高齢者福祉施設において介護福祉士として、介護業務・相談援助業務に従事していた			
[授業の目的・ねらい]					
介護職員初任者研修に係わる以下の項目について実践できるよう学習する こころとからだのしくみと生活支援技術					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 快適な居住環境整備と介護① 2. 快適な居住環境整備と介護② 3. 快適な居住環境整備と介護③ 4. 快適な居住環境整備と介護④ 5. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護① 6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護② 7. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護③ 8. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護④ 9. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護① 10. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護② 11. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護③ 12. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護④ 13. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護① 14. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護② 15. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護③ 16. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護④ 17. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護① 18. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護② 19. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護③ 20. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護④ 21. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護① 22. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護② 23. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護③ 24. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護④ 25. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護① 26. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護② 27. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護③ 28. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護④ 29. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護① 30. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護② 31. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護③ 32. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護④					
[使用テキスト・参考文献] 「介護職員初任者研修テキスト」 (中央法規)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 北海道介護職員初任者研修実施要綱にある 「修了評価」に基づく筆記試験を行い、6割以上の 正答を合格とする。(100%)		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
高齢者・障がい者の福祉	2 通年	講義	32 (2)	16	選択
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
網島 弘泰 平間 千絵 野崎 哲也 伊藤 義晃	網島 有 平間 有 伊藤 有	網島:重症心身障害児施設、デイサービスなどで生活相談業務に携わっていた。 平間:精神神経科で臨床心理士として5年間の審理業務及び、本校学生相談室における心理相談業務に携わる。 伊藤:高齢者福祉施設で20年以上にわたり、介護業務、および生活相談業務に携わっていた。			
[授業の目的・ねらい]					
介護職員初任者研修に係わる以下の項目について説明できるよう学習する 職務の理解 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 介護におけるコミュニケーション技術 認知症の理解 障がいの理解					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 多様なサービスの理解① 2. 多様なサービスの理解② 3. 介護職の仕事内容や働く現場の理解① 4. 介護職の仕事内容や働く現場の理解② 5. 介護保険制度 6. 障害者総合支援制度及びその他制度① 7. 障害者総合支援制度及びその他制度② 8. 障害者総合支援制度及びその他制度③ 9. 障害者総合支援制度及びその他制度④ 10. 介護におけるコミュニケーション① 11. 介護におけるコミュニケーション② 12. 認知症を取り巻く状況 13. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 14. 家族への支援 15. 障がいの基礎的理解 16. 家族の心理、かかわり支援の理解					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「介護職員初任者研修テキスト」 (中央法規)			北海道介護職員初任者研修実施要綱にある「修了評価」に基づく筆記試験を行い、6割以上の正答を合格とする。(100%)		

授 業 概 要

授業の科目名 保健医学	配当学年・時期 2 通年	授業形態 講義	時間数(単位数) 18 (1)	授業回数 9	必修・選択 選択
担当教員 吉田 宜子	実務経験 有	実務経験の概要 介護福祉士、及び准看護師として精神科病棟やデイサービスで高齢者のケアに携わる。			
[授業の目的・ねらい] 介護職員初任者研修に係わる以下の項目について説明できるよう学習する 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 介護におけるコミュニケーション技術 老化の理解 認知症の理解 障がいの理解					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 医療との連携とリハビリテーション 2. 介護におけるチームのコミュニケーション① 3. 介護におけるチームのコミュニケーション② 4. 老化に伴うこころとからだの変化と日常① 5. 老化に伴うこころとからだの変化と日常② 6. 高齢者と健康① 7. 高齢者と健康② 8. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 9. 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識					
[使用テキスト・参考文献] 「介護職員初任者研修テキスト」 (中央法規)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 北海道介護職員初任者研修実施要綱にある 「修了評価」に基づく筆記試験を行い、6割以上の 正答を合格とする。(100%)		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子ども家庭支援論	2 後期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
廣瀬 真弓	有	認可乳児保育園、病院内保育園に35年勤務後、小規模保育園新設に関わり6年間園長として在任する			
[授業の目的・ねらい]					
①子育て家庭に対する支援の意義・役割・体制を理解する。					
②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本を理解する。					
③多様な支援の展開と関係機関との連携を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 子ども家庭支援の意義と必要性					
2. 子ども家庭支援の目的と機能					
3. 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義					
4. 子どもの育ちを喜び共有する意義					
5. 保護者や地域の子育て機能向上のための支援					
6. 保育士に求められる基本的態度					
7. 家庭の状況に応じた支援と子どもの発達段階別支援					
8. 地域資源の活用と自治体・関係機関との連携と協力					
9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源					
10. 子育て支援施策・次世代育成支援施策					
11. 子ども家庭支援の内容と対象					
12. 保育所等を利用する子ども家庭と地域の子育て家庭への支援					
13. 要保護児童等及びその家庭に対する支援(子ども虐待・外国籍家庭)					
14. 要保護児童等及びその家庭に対する支援(ひとり親家庭・障害や精神疾患等)					
15. 子ども子育て支援の現状と課題					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
テキスト			①定期試験 60%		
「子どもと家庭支援論」保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす 守 巧 編著(萌文書林)			②受講態度・提出物提出状況等 40%		
参考文献					
「保育白書2024」(ひとなる書房)					
月間「保育情報」					
・随時必要に応じてプリントを配布する。					

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
障がい者(児)福祉論	2 後期	講義	15 (1)	8	選択
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
綱島 弘泰	有	重症心身障害児施設、デイサービスなどで生活相談業務に携わっていた。			
[授業の目的・ねらい]					
障がい者基本法の改正、障がい者虐待防止法施行、障がい者差別解消法制定等、我が国の障がい者福祉の理念や枠組みは大きく変貌をとげてきている。 それに伴い、障がい福祉従事者に求められる資質も様変わりしているが、その根幹をなすものは、「利用者本位のサービス提供」に真摯に向かいあうことになる。弱い立場の人たちの保護救済を求めた時代から、利用者による主体的な自立を支援する新しい時代の福祉従事者の姿勢のあり方を中心に学びを深めていく。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 「学びのスタートにあたって…」 ○年間計画の確認 ○「障がい」の表記 2. 「障がい」とは？ ○「障がい」の概念とらえ方 3. 「障がい者(児)福祉の歴史」 4. 「新しい福祉の思想」 ○ノーマライゼーション ○自立 ○エンパワメント 5. 「障がいをもった人たちの置かれている実態とニーズ」 ○障がい(者)施設の機能と課題 ○地域生活 ○就労の実態 6. 「障がい者の権利擁護と虐待防止」 ○職員倫理綱領・行動規範 ○オンブズマン ○虐待防止法・差別解消法と支援のあり方 7. 「知的障がい施設で働くことを想定してみよう」 ○施設で働く職員の役割と課題 ○施設職員の労働条件 8. 「利用者との関係性と支援職員のあり方」 ○弱い立場の人たちを支える職員の関わり方					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
毎回テーマごとの資料を作成し学生に配布・活用する			授業態度 20% レポート 課題 20% 定期試験 60% にて評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもの理解と援助	2 後期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
濱本 麻理野	有	幼稚園・保育園での子どもの保育、子育て支援等に携わっていた。クラス運営、実習生指導の経験がある。			
[授業の目的・ねらい]					
保育士養成カリキュラムの改正に伴い、2019年度より新設された科目である。 子どもの発達を踏まえ、子どもを理解するために必要となる知識や技術等、演習を通して理解を深める。					
到達目標					
1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。					
2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。					
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。					
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握①					
(1) 保育における子ども理解の意義					
(2) 保育所保育指針と子ども理解					
2. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握②					
・ 子どもに対する関わりと共感的理解					
3. 子どもを理解する視点と保育実践①					
(1) 子どもの生活や遊び					
(2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達					
(3) 子ども相互の関わりと関係づくり					
(4) 集団における経験と育ち					
4. 子どもを理解する視点と保育実践②					
(1) 葛藤やつまづき					
(2) 保育の環境の理解と構成					
5. 子どもを理解する方法①					
(1) 観察					
(2) 記録					
6. 子どもを理解する方法②					
(1) 省察・評価					
(2) 職員間の対話					
7. 子どもの理解に基づく発達援助①					
(1) 発達の課題に応じた援助と関わり					
(2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助					
8. 子どもの理解に基づく発達援助②					
・ 発達の連続性と就学への支援					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
参考文献 保育所保育指針解説(フレーベル館)			授業参加状況 40%		
			筆記試験 60% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
乳児保育Ⅱ	2 後期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
美口 咲良紗	なし				
[授業の目的・ねらい]					
1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。					
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。					
3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。					
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 乳児保育の基本(ねらいおよび内容)					
(1)・子どもと保育士等との関係の重要性					
・個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり					
(2)・子どもの主体性の尊重と自己の育ち					
・子どもの体験と学びの芽生え					
2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践					
(1)・子どもの1日の生活の流れと保育の環境					
・子どもの生活や遊びを支える環境の構成					
(2)子ども同士の関わりとその援助の実践					
3. 乳児保育における配慮事項					
(1)・子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮					
・集団での生活における配慮					
(2)環境の変化や移行に対する配慮					
4. 食事の援助と環境					
(1)離乳食の援助					
5. 乳児保育における計画の実践					
(1)長期的な指導計画と短期的な指導計画					
(2)個別的な指導計画と集団の指導計画					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「講義で学ぶ乳児保育」(わかば社)			課題・レポート(70%)と授業態度(30%)で評価する。		
「演習で学ぶ乳児保育」(わかば社)					
「保育所保育指針解説」(フレーベル館)					

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもの健康と安全	2 後期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
平田 留美	有	看護師として、病院で看護業務に携わっていた。			
[授業の目的・ねらい]					
1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 (1)子どもの健康と保育の環境 (2)子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理					
2. 身体計測評価					
3. 保育における健康及び安全の管理 (1)衛生管理(2)事故防止及び安全対策(3)危機管理(4)災害への備え					
4. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 (1)体調不良や傷害が発生した場合の対応(2)応急処置(3)救急処置及び救急蘇生法					
5. 感染症対策 (1)感染症の集団発生の予防(2)感染症発生時と罹患後の対応					
6. 保育における保健的対応 (1)保育における保健的対応の基本的な考え方 (2)3歳未満児への対応 (3)個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等) (4)障害のある子どもへの対応					
7.薬の知識					
8. 健康及び安全の管理の実施体制 (1)職員間の連携・協働と組織的取組 (2)保育における保健活動の計画及び評価 (3)母子保健・地域保健における自治体との連携 (4)家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携					
[参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「子どもの保健Ⅱ」(ななみ書房) 「子どもの保健テキスト」(診断と治療社) 「子どもの健康と安全演習ノート」(診断と治療社)			受講態度(5%)、レポート(15%)、 科目試験の結果(80%)を総合して評価する		

授 業 概 要

授業の科目名 障がい児保育	配当学年・時期 2 後期	授業形態 演習	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 大友 愛美	実務経験 有	実務経験の概要 知的障害者施設に7年勤務し、無認可事業所で障がい児者支援を16年、現在はNPO法人で障がい児者支援に携わっている。			
[授業の目的・ねらい]					
障害を社会モデルで捉える考え方を理解したうえで、それぞれの障がい特性について理解する。さらに、それぞれの障がい特性に応じた支援方法を学ぶ。 クラスの中で「気になる子」を保育するためのポイントや、加配保育士として個別に関わる際の留意点など学び、具体的に現場をイメージできるようになる。 進路先である小学校や、児童発達支援事業所など専門機関と連携するための基本的な知識や技術を身に付ける					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 障害を社会モデルで捉える					
2. 発達障害児の理解と支援					
3. 視覚・聴覚・知的障害児・肢体不自由児の理解と支援					
4. 「気になる子」への支援の基本①					
5. 「気になる子」への支援の基本②					
6. 「気になる子」が複数いるクラスの支援 (MTSS/多層的な支援システム)					
7. 課題分析とアセスメント					
8. 課題分析と見てわかる支援の実践 (ASDの子どもに対する支援)					
9. 1次的な支援「全体への集団支援」①					
10. 1次的な支援「全体への集団支援」②					
11. 2次的な支援「クラスの中での特別支援」①					
12. 2次的な支援「クラスの中での特別支援」②					
13. 困った行動に対するかかわり方 (ABC機能分析)					
14. 3次的な支援「個人への特別な支援」					
15. 園全体での共通認識と家族支援					
[使用テキスト・参考文献] 保育者のための気になる子が複数いるクラスの整え方 柳田めぐみ 著 (中央法規出版)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 講義毎に提出する感想(10%)と試験(90%)		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと音楽表現Ⅳ	2 後期	演習	30 (2)	15	選択
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
成田 潤子	有	音楽教室において、幼児から高齢者までの様々な年齢・様々な経験を持つ人々の演奏指導にあたる。			
[授業の目的・ねらい]					
・子どもと音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをさらに発展させ、より幅広い演奏技術と応用技術を学ぶ。					
・童謡の「弾き歌い」技術を習得し、音楽的感受性を養う。					
[授業全体の内容の概要]					
・グループと個人の両面からレッスンを実施し、教科書以外にも必要に応じて適時教材を選ぶ。					
[授業終了時の達成目標(到達目標)]					
・より多くの曲数の童謡の「弾き歌い」に取り組む。					
・進度に応じ、上級の曲に取り組む。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
(1)～(14)					
・童謡、生活の歌などの「弾き歌い」を習得する。					
・進度に応じ、さらに上級の曲に取り組み、技術の向上を目指す。					
・修得した技術によって、表情豊かに演奏することができるようになる。					
(15) ・まとめとして、人前で余裕をもって演奏できるように練習し、その成果を発表する。					

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どものうた	2 後期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
成田 潤子	有	音楽教室での幼児の歌唱指導や、高校合唱部・お母さんコーラスでの童謡・わらべ歌指導の経験がある。			
[授業の目的・ねらい]					
理屈抜きで、心に直接働きかける「歌声」の力を理解し、子どもの豊かな感性を養うことのできる表現を学ぶ。					
自己表現・自己開示の充実をはかることで、お互いを認め、他者との関係を作り協調性を養う。					
[授業全体の内容や概要]					
発声の基礎を学び、輪唱や手遊び歌、童謡から合唱曲までを体験する。					
[授業終了時の達成目標(到達目標)]					
様々な子どもの歌を覚え、自らが表現することの楽しみを味わいながら歌い弾くことができるようにするとともに、子どもの健やかな成長の援助の在り方を理解し取り組むことができるようにする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 基本的な発声を学び多くの童謡を覚える。					
2) リズム運動で音楽に機敏に反応し、歌の楽しさを味わう集中力や協調性を学ぶ。					
3) 手遊び歌の実践を通して、積極性を養う。					
4) 合唱曲を練習し、表現力を養う。					
5) 合唱曲を練習し、表現力を養う。					
6) 弾き歌いの実践①学生自身で探した曲を弾き歌いで発表し多くの童謡を知る。					
7) 弾き歌いの実践②学生自身で探した曲を弾き歌いで発表し多くの童謡を知る。					
8) まとめ 「歌う」こと「表現すること」が、子ども成長に大きく影響することを確認する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
・こどものうた200 小林美実編 チャイルド本社			授業参加状況 30%		
・必要に応じプリントする			実技試験 70%		

授 業 概 要

授業の科目名 地域支援専門員講座	配当学年・時期 2 後期	授業形態 講義	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 必修
担当教員 野崎 哲也 他専任教員	実務経験	実務経験の概要			
[授業の目的・ねらい]					
・NPO法人日本福祉教育支援センター「地域支援専門員」の認定試験合格に向けて ①社会福祉援助技術、地域福祉など、地域支援に関する内容について説明できるよう学ぶ。 ②認定試験前に試験対策を行う。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1, 「地域福祉の理念」について説明できる 2, 「地域福祉の役割と意義」について説明できる 3, 「地域福祉の歴史的発展」について説明できる 4, 「地域福祉推進の課題と展望」について説明できる 5, 「地域における生活支援とソーシャルワーク」について説明できる 6, 地域支援専門員認定試験対策① 7, 地域支援専門員認定試験対策② 8, 地域支援専門員認定試験対策③					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
使用しない			資格認定試験の成績で評価する(100%)		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
卒業演習	2 後期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
専任教員	有				
[授業の目的・ねらい]					
○2年間の学校生活、学習、研究、実習、活動の総まとめとして、 ①その内容や成果、感想等を記録にとどめ、卒業記念誌『涓滴』を発行する。 ②合唱や、演劇・演奏などによるステージ発表の創作とその運営に取り組み、『卒業記念発表会』を開催する。 ○『涓滴』の発行や『卒業記念発表会』の開催を通して、 ①本校の実践内容を、保育所・幼稚園・各種施設・高校その他、関係する多くの方々に知っていただく。 ②福専での2年間の学びの成果、一人ひとりの成長を、家族・保護者の方々やお世話になった諸先生をはじめとする、多くの方々に見ていただく。 ○先輩達が築き上げてきた福専の伝統を後輩へと引継ぎ、私たちの財産としていく。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1回目 ガイダンス					
卒業記念発表会運営委員・涓滴編集委員の選出					
卒業記念発表会の発表部門(グループ)の希望調査・グループ分け					
2回目以降					
○卒業記念発表会の取り組み					
合唱への取り組み「ともしびをたかくかかげて」「大地讃頌」の2曲を練習					
最終的には1年生との合同合唱として完成させる					
グループ毎に発表に向けて作品を作り上げる					
演目の検討・プレゼンテーション・演目決定、脚本の作成・推敲					
大道具、小道具、衣装、人形、ペープサートなど、演目に合わせた制作					
劇中で用いる曲の作曲・作詞、効果音等の音作りと、それらの演奏					
演技練習を重ねながら上記制作物の変更・改良					
発表会開催に向けた準備					
ポスター(保育所・幼稚園公演用と一般公開用)作成、プログラム作成、開催要項の作成					
保育所・幼稚園を始めとする関係各所への開催案内、招待状の作成と送付					
2月中旬以降に発表会を開催					
物品の搬入・搬出、会場設営、観覧する保育所・幼稚園の送迎、会場内での保育補助					
駐車場誘導、入場受付、会場案内、会場清掃、照明、音響、等々全て自分たちの手で行う					
○卒業記念誌「涓滴」の作成					
編集委員と教員により、執筆内容と執筆者を検討・決定(全員が何らかの形で執筆する)					
執筆を担当する学生に編集委員が原稿依頼・回収					
仕上がった原稿を読み、検討・訂正、再執筆の依頼					
挿入する写真・イラストの選定、校正作業、等					
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)			
なし		授業への参加意欲・態度(50%)			
		制作物や執筆原稿への評価(50%)			

